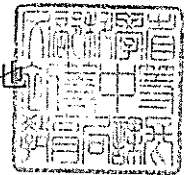


29受初健食第13号  
平成29年12月11日

各都道府県・指定都市教育委員会教育長  
各都道府県知事  
附属学校を置く各国立大学長  
附属学校を置く各公立大学法人の理事長 殿  
各国公立高等専門学校長  
構造改革特別区域法第12条第1項  
の認定を受けた各地方公共団体の長

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課長  
三 谷 卓 也



(印影印刷)

高等学校等における献血に触れ合う機会の受入れについて（依頼）

標記について、平成29年11月27日付け薬生血発1127第10号で厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課長より別紙（写）のとおり、依頼がありました。

ついては、この趣旨を御理解いただき、高等学校（中等教育学校及び特別支援学校を含む。以下同じ。）及び高等専門学校において、献血に触れ合うための機会を積極的に受け入れていただけるよう、よろしくお取り計らいください。

このことについて、都道府県・指定都市教育委員会におかれては、所管の高等学校及び域内の市区町村教育委員会に対して、都道府県知事及び構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた各地方公共団体の長におかれては、所轄の高等学校に対して、附属学校を置く各国立大学長及び各公立大学法人の理事長におかれては、その管下の高等学校に対して、周知されるようお願いいたします。

(担当)

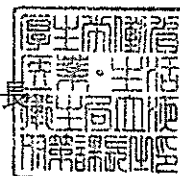
文部科学省初等中等教育局  
健康教育・食育課保健指導係  
電 話:03-5253-4111 (内線 2918)  
メー ル:kenshoku@mext. go. jp



薬生血発 1127 第 10 号  
平成 29 年 11 月 27 日

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課長 殿

厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課長



### 高等学校等における献血に触れ合う機会の受入れについて（依頼）

献血の普及啓発につきましては、日頃より格段の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成 28 年度は、血液事業関係者の皆様の御尽力と国民の皆様の御理解と御協力により、延べ約 483 万人の方々に献血の御協力をいただきました。

しかし、10 代（16 歳～19 歳）では、15 年前の平成 13 年度には約 58 万人（献血率<sup>※</sup>約 9.7%）であった献血者数は、現在は約 25 万人（献血率<sup>※</sup>約 5.2%）と減少しています。

※献血率＝年代別献血者延べ人数／年代別人口。

厚生労働省では、少子高齢社会の進展も踏まえると、今後の献血を支えていくために、将来を担う若年層の方々に献血について理解を深めていただくことが重要と考えています。

また、高校時代における献血体験が、その後の献血行動の動機付けになるなど、献血者の啓発に効果的であることが平成 23 年度に実施した「若年層献血意識調査」の結果から報告されています。

つきましては、厚生労働省では、従来より、日本赤十字社及び都道府県と協力し、高校生等の皆さんに、献血に触れ合う機会を設けてきたところであり、今後これを一層強化していく予定です。

貴職におかれましては、かかる趣旨を御理解いただき、献血セミナーや学校献血等の献血に触れ合うための機会を、高等学校（中等教育学校及び特別支援学校を含む）及び高等専門学校が積極的に受け入れていただけるよう、各都道府県・指定都市教育委員会教育長、各都道府県知事、附属学校を置く各国立大学長、附属学校を置く各公立大学法人の理事長、各国公私立高等専門学校長及び構造改革特別区域法第 12 条第 1 項の認定を受けた各地方公共団体の長へ周知下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、貴職から文書による周知を行っていただいた後、当職より各都道府県衛生主管部（局）長宛て協力依頼通知を発出する予定です。

# 献血セミナーの実施について

日本赤十字社では、将来の献血を支えていただける高校生や小中学生を対象に、献血の意義や血液製剤についての理解を深めていただく取り組みとして、「献血セミナー」を学校へ出向いて積極的に実施し、輸血用血液製剤が安定的に供給される体制を維持するよう努めています。

## 実施内容

### 1. スライドによる説明

- (1) 献血の現状について
- (2) 献血の沿革について
- (3) 血液(赤血球・白血球・血小板)について
- (4) 輸血用血液製剤の種類について
- (5) 献血について
- (6) 検査、製剤、供給について
- (7) 血液の使われ方について
- (8) 献血推進キャンペーンについて
- (9) いのちの大切さについて



### 2. 映像放映

- (1) 日本赤十字社の活動及び血液事業に関する映像
- (2) 輸血を受けた患者さんに関する映像

### 3. その他

- (1) 献血に関するパンフレット等の配布
- (2) アンケートへのご協力や感想文のお願い



## 実施にあたって

1. 実施内容については、ご相談のうえ決定させていただきます。
2. 実施時間については、30分～60分程度を想定しておりますが、事前にご相談のうえ決定させていただきます。

＜献血セミナーに関するお問合せ先＞

最寄の血液センターまでお願いいたします。なお、連絡先については、別添をご覧ください。

# 全国赤十字血液センター 一覧

平成29年10月1日現在

No.	赤十字血液センター名	郵便番号	住所	電話番号(代表)	問合せ窓口
1	北海道赤十字血液センター	063-0802	札幌市西区二十四軒2条1-1-20	011-613-6121	献血推進担当部門
2	青森県赤十字血液センター	030-0966	青森市花園2-19-11	017-741-1511	
3	岩手県赤十字血液センター	020-0831	盛岡市三本柳6-1-6	019-637-7200	
4	宮城県赤十字血液センター	981-3206	仙台市泉区明通2-6-1	022-290-2501	
5	秋田県赤十字血液センター	010-0941	秋田市川尻町字大川反233-186	018-865-5541	
6	山形県赤十字血液センター	990-0023	山形市松波1-18-10	023-622-5301	
7	福島県赤十字血液センター	960-1198	福島市永井川字北原田17	024-544-2550	
8	茨城県赤十字血液センター	311-3117	東茨城郡茨城町桜の郷3114-8	029-246-5566	
9	栃木県赤十字血液センター	321-0192	宇都宮市今宮4-6-33	028-659-0111	
10	群馬県赤十字血液センター	379-2154	前橋市天川大島町2-31-13	027-224-2118	
11	埼玉県赤十字血液センター	337-0003	さいたま市見沼区大字深作955-1	048-684-1511	
12	千葉県赤十字血液センター	274-0053	船橋市豊富町690	047-457-0711	
13	東京都赤十字血液センター	162-8639	新宿区若松町12-2	03-5272-3511	
14	神奈川県赤十字血液センター	222-0032	横浜市港北区大豆戸町680-7	045-834-4611	
15	新潟県赤十字血液センター	951-8127	新潟市中央区関屋下川原町1-3-12	025-230-1700	
16	山梨県赤十字血液センター	400-0062	甲府市池田1-6-1	055-251-5891	
17	長野県赤十字血液センター	381-2214	長野市稲里町田牧1288-1	026-214-8070	
18	富山県赤十字血液センター	930-0821	富山市飯野26-1	076-451-5555	
19	石川県赤十字血液センター	920-0345	金沢市藤江北4-445	076-254-6372	
20	福井県赤十字血液センター	918-8011	福井市月見3-3-23	0776-36-0221	
21	岐阜県赤十字血液センター	500-8269	岐阜市茜部中島2-10	058-272-6911	
22	静岡県赤十字血液センター	420-0881	静岡市葵区北安東4-27-2	054-247-7141	
23	愛知県赤十字血液センター	489-8555	瀬戸市南山口町539-3	0561-84-1131	
24	三重県赤十字血液センター	514-0003	津市桜橋2-191	059-229-3580	
25	滋賀県赤十字血液センター	525-8505	滋賀県草津市笠山7丁目1-45	077-564-6311	
26	京都府赤十字血液センター	605-0941	京都市東山区三十三間堂廻り町644	075-531-0111	
27	大阪府赤十字血液センター	536-8505	大阪市城東区森之宮2-4-43	0120-32-6759	
28	兵庫県赤十字血液センター	651-0073	神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5	078-222-5011	
29	奈良県赤十字血液センター	639-1123	大和郡山市筒井町600-1	0743-56-5916	
30	和歌山県赤十字血液センター	649-6322	和歌山市和佐関戸118-5	073-499-7724	
31	鳥取県赤十字血液センター	680-0901	鳥取市江津370-1	0857-24-8101	
32	島根県赤十字血液センター	690-0882	松江市大輪町420-21	0852-23-9467	
33	岡山県赤十字血液センター	700-0012	岡山市北区いずみ町3-36	086-255-1211	
34	広島県赤十字血液センター	730-0052	広島市中区千田町2-5-5	082-241-1246	
35	山口県赤十字血液センター	753-8534	山口市野田字野田172-5	083-922-6866	
36	徳島県赤十字血液センター	770-0044	徳島市庄町3-12-1	088-631-3200	
37	香川県赤十字血液センター	761-8031	高松市郷東町字新開587-1	087-881-1500	
38	愛媛県赤十字血液センター	791-8036	松山市高岡町80-1	089-973-0700	
39	高知県赤十字血液センター	780-8010	高知市棧橋通6-7-44	088-833-6666	
40	福岡県赤十字血液センター	818-8588	筑紫野市上古賀1-2-1	092-921-1400	
41	佐賀県赤十字血液センター	849-0925	佐賀市八丁畷町10-20	0952-32-1011	
42	長崎県赤十字血液センター	852-8145	長崎市昭和3-256-11	095-843-3331	
43	熊本県赤十字血液センター	861-8039	熊本市東区長嶺南2-1-1	096-384-6000	
44	大分県赤十字血液センター	870-0889	大分市大字荏隈717-5	097-547-1151	
45	宮崎県赤十字血液センター	880-8518	宮崎市大字恒久885-1	0985-50-1800	
46	鹿児島県赤十字血液センター	890-0064	鹿児島市鴨池新町1-5	099-257-3141	
47	沖縄県赤十字血液センター	902-0076	那覇市与儀1-4-1	098-833-4747	

# 献血について

## 献血の流れ

### 初めて献血いただく方へ

#### 〈血液の量、献血の量〉

人間の血液の量は、体重のだいたい13分の1と  
言われています。  
医学的には、人間の血液の量の12%を献血し  
ても、身体に影響がないことがわかっています。

皆さまには、安全な量の献血をお願いして  
おります。

(目安)

あなたの 体重は	血液の量 (体重の13分の1)	採血可能な血液の量 (血液量の12%)
50kg	3800mL	450mL
65kg	5000mL	600mL
78kg	6000mL	720mL

献血後の身体は、血液の「量」は水分の摂取に  
より短時間で回復します。

しかし、血液の成分により、回復の速さは異なり  
ます。

回復する速さは、血漿成分が約2日で一番速く、  
次に血小板成分が約4〜5日、最後に赤血球が  
約2〜3週間かかります。なお、これらは個人差  
があり、あくまでも目安です。

今回の献血はこれらの期間を考慮し、献血して  
いただく方の安全を守るため、基準を設けており  
ます。

### 1 献血受付



「お願い」パンフレット及び「献  
血の同意説明書」をお読みいた  
だき、内容について同意いただい  
たうえで、献血の受付を行います。

#### 問診回答



献血される方の安全と患者さんが  
安心して輸血を受けられるよう、  
献血をお申し込みいただいた方の  
健康状態を伺うために、質問事項  
にご回答いただきます。

- ・献血は、健康な方ならば、献血による身体への影響は  
ほとんどありません。
- ・皆さまの健康を守るため、献血にはさまざまな基準  
(年齢、体重、血圧、ヘモグロビン濃度、問診など)が  
あります。健康状態を十分確認したうえで行います。が、  
時には体調を損ねる場合もあります。

### 2 問診および血圧測定



ご回答いただいた内容に基づいた  
問診と血圧測定を行います。

#### ヘモグロビン等の測定、血液型の事前判定



少量の血液を採血し、貧血の心配  
がないかヘモグロビン濃度の測定  
と血液型の事前判定を行います。  
成分献血の場合は、血小板数の判  
定も行います。

- ・針を刺したときの痛みは、すぐにやわらぎます。いつま  
でも痛みが続いたり、強い痛みがあれば、直ちにお近く  
の看護婦、医師などにお知らせください。
- ・針や血液パックなど、献血に使用する資材は、感染を  
防止するため、1回のみ使用(使い捨て)となってい  
ますので、ご安心ください。

### 3 献血(成分、400mL、200mL)



採血ベッドに横になり献血です。  
献血用の針を刺します。

採血にかかる時間は、  
400mL・200mL献血で10〜15分  
程度かかります。  
成分献血は採血量に応じて、  
40〜90分程度の時間がかかります。

### 4 休憩



献血後は、休憩場所で水分を十分  
に摂取いただき、30分程度の休  
憩をおとりください。  
献血直後にトイレへ行く際は、職  
員にお声掛けください。また、座  
位で行うようにしてください。



水分補給  
ジュース(スポーツドリンク)、  
お茶などで十分補給してください



水分の補給!  
休憩!



休憩  
乗り物を運転される場合は、  
その前に十分な休憩(30分以上)  
をおとってください

## 献血後の過ごし方について

- ・トイレ
- ・エレベーター、階段
- ・入浴
- ・スポーツ
- ・重労働

採血直後の排尿は座位で行ってください。  
使用する際は、特に注意してください。  
2時間以内の入浴と当日のサウナは避けてください。  
水泳、マラソンなど激しいスポーツは避けてください。  
採血側の腕に強い力がかからないようにお願いします。



献血キャラクター

けいけっちゃん

## 採血基準※1

献血の種類 項目		全血献血		成分献血	
		200ml献血	400ml献血	血漿成分献血	血小板成分献血
1回採血量		200ml	400ml	600ml以下(体重別)	
年齢		※2 16歳～69歳	※2 男性17歳～69歳 女性18歳～69歳	※2 18歳～69歳	※2 男性18歳～69歳 女性18歳～54歳
体重		男性45kg以上 女性40kg以上	男女とも 50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上	
最高血圧		90mmHg以上			
血色素量 (ヘモグロビン濃度)		男性 12.5g/dl以上 女性 12g/dl以上	男性 13g/dl以上 女性 12.5g/dl以上	12g/dl以上 (赤血球指数が標準域にある女性 は11.5g/dl以上)	12g/dl以上
血小板数		—	—	—	15万/μl以上
※3※4 1年に採血できる回数		男性6回以内 女性4回以内	男性3回以内 女性2回以内	血小板成分献血1回を2回分に換算して血漿成分献血と合計で24回以内	
※3※4 1年に採血できる総採血量		200ml献血と400ml献血を合わせて 男性1,200ml以内、女性800ml以内		—	—
共通事項		次の者からは採血しない ①妊娠していると認められる者、又は過去6か月以内に妊娠していたと認められる者 ②採血により悪化するおそれのある循環器系疾患、血液疾患その他の疾患にかかっている と認められる者 ③有熱者その他健康状態が不良であると認められる者			

※1 採血基準は、献血にご協力いただける方の健康を保護するために、国が定めたもので、採血の実施は、医師が問診結果等を踏まえて総合的に判断します。

※2 65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までに献血の経験がある方に限られます。

※3 期間の計算は採血を行った日から起算します。

※4 1年は52週として換算します。

## (献血の間隔) ※5

今回の献血 前回の献血	全血献血		成分献血	
	200ml献血	400ml献血	血漿成分献血	血小板成分献血※6
200ml献血	男女とも4週間後の同じ曜日から			
400ml献血	男性は12週間後、女性は16週間後の 同じ曜日から		男女とも8週間後の同じ曜日から	
血漿成分献血	男女とも2週間後の同じ曜日から			
血小板成分献血				

※5 期間の計算は献血を行った日から起算します。

※6 血漿を含まない場合には、1週間後に血小板成分献血が可能になります。

ただし、4週間に4回実施した場合には次回までに4週間以上あけてください。